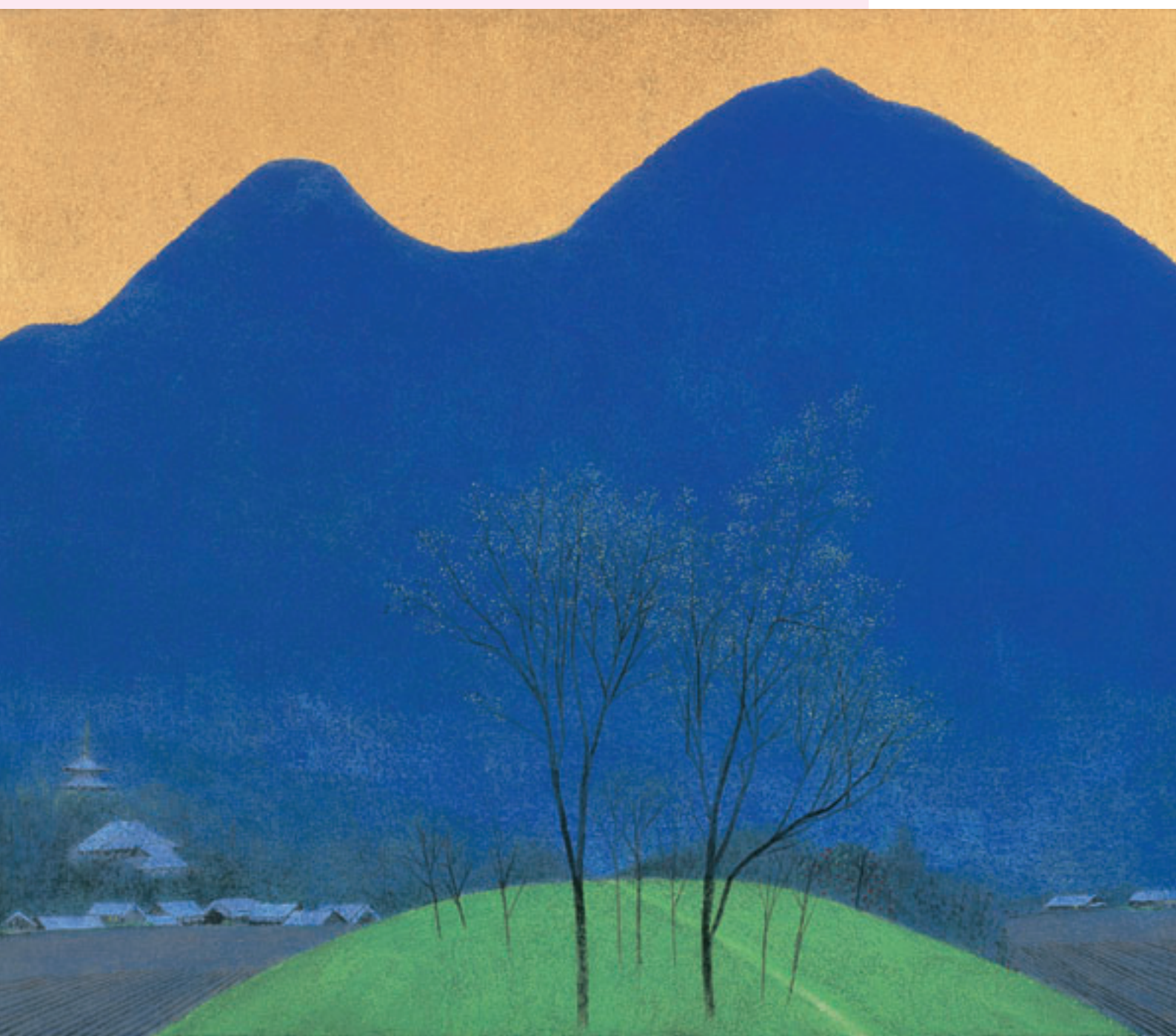


MUJINTO

The Alumni Association of Otani University

無書燈

2011年3月
No.135



大谷大学同窓会

大谷大学と私

「イエイツとの出会い」

内藤史朗先生にインタビュー



本学において、永年にわたり教鞭をおとりいただきました内藤史朗先生に、尋源館にお越しいただき、お話を伺いました。

—まず、先生と大谷大学についてお聞かせください。

それは先祖にさかのぼれば長いですね。真宗大谷派の門徒でして、おじいさんは僧侶です。まあ、それは直接には関係ないんですけど。それで京都大学の文学部英語英文学科を卒業して、名古屋の高校に勤めておりました。その高校で発行している研究紀要に載せた論文が読まれまして、大谷大学に寄せてもらうことになりました。

—先生のご研究について、お聞かせください。

大谷大学に参りました時には、鈴木大拙先生がまだご存命でしたので、EBS (Eastern Buddhist Society) で翻訳のお手伝いをしておりました。しばらくしたら、「イエイツがどうも鈴木先生の本を読んでいるらしい」と教えてもらいました。私はそれまでシェイクスピアとかをやっていたのですけれども、本当かなあと想着、それでイエイツのものを買ってきて読み出したのです。ちょうどそのころイエイツの詩の草稿が出版されました。それを読んでおりましたら、「empty」という言葉は最初から出ているのだけれども、ある時期からその意味が変わるのです。「空^{から}つぽ」という意味から「空^{うち}」という意味になってきます。絶対肯定の「empty」という意味になってくるのです。それである時点でここから鈴木先生の影響なのだというところを発見したのです。それを簡単な英語の論文に書いて発表しました。

すると、イエイツの故郷の国際夏期学校から招待があり講演しました。それから英文著作を出し、海外で評価されました。

また、ワーズワースやラスキンにも仏教との符合が認められます。ワーズワースを通して鈴木大拙先生を意識するようになったと欧米人に伺ったことがあります。私は、ワーズワースは専門ではないのですが、ちよつと後に出てくるのがイエイツです。彼は「空」"emptiness"という言葉しか知らなかったのですが、もし「阿弥陀」を理解していたら「阿弥陀」という言葉を使ったのではないかと思えます。「阿弥陀」というものが彼に理解されていたらと、非常に残念に思っています。私がもう少し早く生きていれば教えていたのだと思うのだけれども。

私は大谷大学に来て、そういう「空」というものと、「悟り」というものと、それから「阿弥陀」というものに会ったのです。我々はこのままでは「阿弥陀」ではないのです。だけれども「阿弥陀」に近づこうとする、それが「will」でしょう。つまり「念仏によって仮面（阿弥陀様）にあこがれる（近づこうとする）」。「もちろん近づこうとしても、そう簡単に近づくことはできません。

近づくことはできないけれども、近づこうとすることによってそういう世界とつながりを持つことができません。我々の中にある「阿弥陀」と、大宇宙の無限の力である「emptiness」、そういうこととつながりを持つというのが「念仏」の世界ではないかと私は思うのです。

—学生さんとのエピソードがあれば、お聞かせください。

ある同窓生が芥川賞をもらう一週間か十日前、あの発表があったときは十二月だったので大掃除をしておりました。そうしたらレポートが二つ出てきたのです。私は自分の講義で小説のことを話したのですが、一番いいレポートを二つだけとっていただいたのです。それは受賞者がレポートを書いてからもう十五年ぐらい経ちますが、それが出てきたのです。

ふつと所属を見ますと、国際文化学科でした。今までみんな文学科などだったので、国際文化学科のレポートは珍しいなと思って読み返したのです。大変印象的なレポートで、ありありと覚えています。題まで覚えていましたね。「アイルランド文化の精神について」という題目でした。この「アイルランド文化」としたところがおもしろいのです。普通だったら「文学の精神について」な

どとするのですが。それで、とりわけいいと思ったのは、一つの文体で書いてあることです。それは受賞者自身の文章で書いてあるのです。もちろんレポートですから参考書も読んだのだろうが、一貫して自分の文体で書いてあるのが珍しかったのです。だから十数年経っても記憶に残っていたのでしょう。それからほんの一週間ほど後に、芥川賞の受賞会見のテレビ放送に同窓生の受賞者が出ていました。あれにはびっくりしましたね。

—最後に先生の「大谷大学や大谷大学の学生への願い」をお聞かせください。

すべての人間には「構想力」というのがあります。赤ちゃんだって生まれたときから必死になって「構想力」というのを自分で養っています。つまり、すべての人が「構想力」を潜在的に持っているのです。

ところが、現代では、赤ちゃんでさえ一所懸命に適応しようとやっているのに、わざわざ適応しないように仕向けるようなことを言っているように思います。せっかくの能力を削いでいるわけです。

目指すべきなのは、現代のそのよくなあり方とは、むしろ、まったく反対の世界でしょう。やっぱり、努

力して「阿弥陀」というものを回復し、そして「念仏」でもって一所懸命葛藤しながらも、上昇志向でやっていくことが大事だと思うのです。こういう境地を私は考えてきました。「念仏」を、現代風に言えば、こう考えることも可能だと思うのです。つまり、「念仏」というものを現代に生きる私たちの上に解釈したら、「現場主義」とも言えると思います。「阿弥陀」を目指して、現場に入っ

て苦闘するようないささまを「念仏」と言ってもよいのではないのでしょうか。英語で言う「muddle through」とか「through muddle」とは「泥の中を生きて行け」ということです。そういう精神が今の学生には必要なのではないかと思っています。

そういう意味では、大谷大学が卒業論文をしっかりと課しているというのは大事なことです。現場の中にありながら「構想力」をもって「阿弥陀」を目指して「念仏」していく、ということをしていくのが卒業論文ですからね。多くの大学が大衆化されて卒業論文も課さないようなところが増えたようですけれども、大谷大学の場合はちよつと違うのです。そういうスピリットみたいなものをしっかりと保っているということとも、「念仏の世界」だと思います。イエイツの言葉でいえば、「格闘す

る」人間の姿がそこにあるのです。大谷大学とは、こういう人間を生み出す大学だと思います。こういう

面から見ても、イエイツというのは、我々にとってはわりと身近な存在なのです。

〔略 歴〕

一九三三年 台北市に生まれる
一九五七年 京都大学文学部英語英文学科卒業
一九五七年 東海学園英語科教諭
一九六四年 大谷大学専任講師
一九六六年 大谷大学助教授
一九七六年 大谷大学教授
一九九九年 大谷大学退職
現在 大谷大学名誉教授

〔著 書〕

『Yeats and Zen (The 2nd Edition)』
『W.B. Yeats's Masks and Plotinus: With Reference to Zen, Taoism & Shin Buddhism』
『W. B. イエイツ論—仮面の変貌—』
『豊穣の風土—現代アイルランド文学の群像—』
『東西文学の世界—』

『霧社の光と闇—台湾の十字架と隠れ念仏—』
『東天紅の龍—鄭成功評伝—』
『共に育つ 難聴教育—』

〔論 文〕

「シエイクスピアの視点から見たフォールスタッフの宿命」
「マクベスのみかけとまこと—シエイクスピアの実存—」
「シエイクスピアのレトリック—叙事的文体から劇的文体へ—」
「詩人イエイツの回心」
「仮面の考察—ワイルドとイエイツ—」
「変貌の対話—イエイツの劇・詩の「問答」—」
「クフリーン像における仮面の変貌—イエイツの意識されない構造—」
「初期イエイツの仮面とアイデンティティー—後期の作品に論及して—」
「イエイツと鈴木大拙」
他論文 多数

個性溢れる名物教授

大谷大学教授（英文学） 村瀬順子

内藤先生は、文学科英文学コースの名物教授として一時代を築かれました。シエイクスピアからラスキン、イエイツに至る幅広い英文学研究を、禅思想や古代哲学者プロティノスの思想をも視野に入れた独自の方法論

によって展開されただけでなく、少年時代を過ごされた台湾を舞台にした小説も執筆されました。ご退職後もラスキンを初めとする数々の翻訳書の出版やサイバー大学院の開設準備、台湾と日本を結ぶ会報誌の発行など、多方面に亘る活動を継続され、その情熱と行動力には頭が下がる思いです。



むらせ よりこ
1980年3月修了
京都大学大学院修士課程英文学専攻

議論好きな先生は教授会でも思い切った意見を述べられるので、ハラハラすることも何度ありました。先生は議論を楽しむ余裕さえ持っておられるように見えました。天性の明るさで常に前向きに力強く進んで行かれる先生の生き方を私も見習いたいと思います。



本部

報告



二〇一一年度同窓会総会の案内

開催日 二〇一一年五月十二日(木)
時間 午後一時三〇分～
(総会終了後、懇親会)

支部長・事務局交代のご紹介
ありがとうございます
よろしくおねがいいたします

〈茨城支部長〉 田村 晃 洋

(前支部長 関野 睦)

〈小松支部長〉 能邨 勇 樹

(前支部長 遠州 暁)

〈大垣支部長〉 太 宰 行 信

(前支部長 佐々木舜峰)

〈福岡支部長〉 轡 水 良 夫

(前支部長 小田旨隆)

〈熊本支部長〉 糸 山 公 信

(前支部長 菊池顕正)

〈三条支部事務局〉 史 陀 浩 輝

(前事務局 源 了 恵)

〈茨城支部事務局〉 延 岡 潤 照

(前事務局 三浦 仁)

**二〇一〇年度前期卒業・修了ならびに
同窓会新入会員歓迎祝賀会を開催**

二〇一〇年九月三十日(木)、大



歓迎祝賀会の風景



挨拶する北原副会長

卒業証書ならびに学位記授与式終了後、学内の多目的ホールにおいて同窓会と大谷大学が主催する「大谷大学卒業・修了ならびに同窓会新入会員歓迎祝賀会」が開催されました。

歓迎祝賀会は、草野顕之学長、北原了義同窓会副会長の祝辞、挨拶に続いて、教育後援会相馬温会長の発声で乾杯がおこなわれ、祝宴が始まりました。指導の教員も出席され、卒業・修了生は学生生活最後の恩師、友人との

語り合いの時が過ぎるのを惜しむ様子で、和やかな歓談の一時を過ごして終了しました。

大谷大学・同窓会・NPO法人尋源舎の共催により、
二〇一〇年度「全国縦断夏季八十講」を開催

二〇一〇年度の夏季巡回講演会は、「大谷大学・同窓会 全国縦断夏季八十講」として七月から九月にかけて開催されました。講演会では「大谷大学の学問」を統一テーマに掲げ、市民により身近な講演会になるよう取り組みました。今年は全国六十九会場で、二、七〇〇名余りの方々にご参加いただきました。

また今年度は、「金沢支部」「岡山支部」「福岡支部」の三支部で、地域への広報と市民への参加を積極的

■金沢支部

二〇一〇年八月二十一日(土)

水島見一大谷大学教授

「人が真の人のにまで育まれるとは」
(金沢市「真宗大谷派金沢別院」)



金沢市・金沢別院にて

※NPO法人「尋源舎」は同窓会が母体となって、二〇〇六年十二月に設立した、仏教の公開を目的とした特定非営利活動法人です。尋源舎では、活動や事業をご支援いただける賛助会員(一口…三千元)を募集しています。
申込みと問合せは、大谷大学同窓会本部(TEL・〇七五―四一―八一二四)まで。

■岡山支部

二〇一〇年九月四日(土)

織田顕祐大谷大学教授

「共に生きる道」

(総社市「サンロード吉備路」)



総社市・サンロード吉備路にて

■福岡支部

二〇一〇年九月四日(土)

草野顕之大谷大学長

「親鸞伝の史実と伝承」

(福岡市「福岡国際ホール」)



福岡市・福岡国際ホールにて

第十五回大谷大学同窓会ホームカミングデーを開催

二〇一〇年十一月十三日（土）、同窓会が主催する「ホームカミングデー」が、大学の学園祭（紫明祭）期間中にあわせて開催されました。ホームカミングデーも今年で十五回目を数え、名誉教授をはじめ、退職された先生や在職教員の出席を得て、全国から同窓生、その家族など二百二十名の参加をいただきました。

第Ⅰ部は、テーマ「集おう!!

母校で」として、博綜館第一会議室をメイン会場に、久しぶりに再会した恩師や旧友となごやかに懇談がなされました。懇談中を利用して、同窓生同士の新たな出合いを期待した参加型イベントのクイズツアー「学舎散策」が催され、参加者には、全国の同窓会役員ならびに各支部から提供いただいた特産品などが景品として贈られ、大変好評を博しました。



挨拶する藤島建樹会長

また、「学園祭模擬店利用券」が参加者に配付され、模擬店の利用を通して、在学生との交流も図られました。そして、投票により、模擬店優秀団体に自灯学寮が選ばれ、翌日の「後夜祭」では同窓会より表彰状と記念品が贈られました。

第Ⅰ部の後半では、第十一回ホームカミングデーから五年連続して出



恩師との再会風景（博綜館で）



イベント風景

席された同窓生七名に、記念品として大学オリジナルグッズが贈呈されました。



学園祭への参加風景（1号館前で）



柴田真由美さん（右）によるフルート演奏

第Ⅰ部終了後、京都ロイヤルホテル&スバに会場を移し、第Ⅱ部の「懇親会」が開催されました。懇親会では、「同窓生の活躍紹介」の催しとして、本学卒業生の柴田真由美さんによるフルート演奏が披露されました。その後、柴田真由美さんを囲んでの歓談が行われ、参加者一同なごやかな雰囲気の中、盛会裡に終了いたしました。

第15回 ホームカミングデー（2010.11.13）



比叡山を背に記念撮影（博綜館屋上にて）

支部だより

飛驒支部で「野田晶子さん・窪田哲さん
の大臣表彰を祝う会」を開催

二〇一一年一月十三日（木）、「野田晶子さん・窪田哲さん」の大臣表彰を祝う会」が高山グリーンホテルにおいて開催されました。野田さん（一九七三年文学部卒業）は高校の国語科教員としての実績から文部科学大臣表彰を、窪田さん（一九六六年短期大学部卒業）は長年の保護司活動の実績から法務大臣表彰を受賞されました。



出席者全員で記念写真（高山グリーンホテルで）



飛驒支部より記念品の贈呈

当日の「祝う会」には飛驒支部会員など二十五名が参加し、野田さんの友人である花岡天山さんご夫妻によ



尺八・琴の演奏

る尺八と琴の演奏や、野田さん・窪田さんへの記念品贈呈などが行われ盛大な会となりました。

（飛驒支部長 内記 浄）

湖東支部で第二回
「春の集い」を開催

二〇一一年二月五日（土）、湖東支部の第二回「春の集い」が彦根グ



けん玉の実演



けん玉の観賞風景

ランドデュークホテルにおいて開催されました。支部会員のほか、家族や友人等を含め四十数名が参加し、落語と漫談の話芸やけん玉の技に魅了され、大いに盛りあがりました。その後の懇親会には二十数名が参加し、親睦を深めました。

（湖東支部長 禿 憲仁）



懇親会（彦根グランドデュークホテルで）

支部独自の催しの記事と写真の提供をお願いします。

災害お見舞い申しあげます

今冬の豪雪、霧島連山（新燃岳）の噴火より被害にあわれました関係各位に対しまして、衷心よりお見舞い申し上げます。

こんな時は、同窓会本部へ
ご連絡ください

ご結婚

ご結婚される会員の方は、同窓会本部までご連絡ください。お祝いの

電報をお届けするとともに、会報『無盡燈』にてご紹介させていただきます。

また、尋源講堂（大谷大学 尋源館二階）を仏前結婚式場としてもご利用いただけますので、ご相談ください。

〈仏前結婚式のお問い合わせ先〉

大谷大学 総務部総務課

TEL・〇七五―四一―八二六三



仏前結婚式の風景
（大谷大学尋源講堂にて）

転居・改姓などの変更があったとき

同窓会本部では、卒業と同時に在学時の保証人住所・電話番号等を登録し、それをもとに会報『無盡燈』などを発送しています。皆さんに同窓会や母校の最新の情報をご提供するためにも、転居・改姓など登録内容に変更が生じた場合は、同窓会本部にお知らせください。

〈お問い合わせ先〉

大谷大学 同窓会本部

TEL・〇七五―四一―八二二四

FAX・〇七五―四一―八二五七

E-mail kouyu@sec.otani.ac.jp

母校だより

二〇一〇年度前期「卒業証書・学位記授与式」を挙行

二〇一〇年九月三十日（木）、二〇一〇年度前期「大学院学位記授与式」及び「文学部卒業証書・学位記授与式」ならびに「短期大学部卒業証書・学位記授与式」が挙行され、大学院博士後期課程一名、大学院修士課程一名、文学部二十六名、短期



卒業・修了式

大学部
一名が
学窓を
巣立ち
ました。
式の
中で、
草野顕
之学長
は「本
学で学
んだこ
とを心

の支えにしてほしい」と告辞し、安原晃学校法人真宗大谷学園理事長は「自己を問う人生を送ってほしい」と祝辞を述べられました。

課程博士の学位を授与

二〇一〇年九月三十日（木）、二〇一〇年度前期「卒業証書・学位記授与式」において、博士後期課程修了者一名に博士（文学）の学位を授与しました。学位取得者はピタックティータラムメーティー氏（仏教学）です。



ピタックティータラム メーティーさん

「開学記念式典並びに初代学長清沢満之清沢満之謝徳法要」を厳修

二〇一〇年十月十三日（水）、「開学記念式典並びに初代学長清沢満之謝徳法要」を本学講堂において執り行いました。十月十三日を開学記念日とするのは、一九〇一（明治三十四年）年十月十三日に、大谷大学の前身である「真宗大学」が、近代的大学として東京の巣鴨に開校したことに由来します。

式典は混声合唱団による讃歌の後、草野顕之学長を導師として法要が営まれました。続いて、永年勤続者表彰と記念講演が行われました。今年、勤続三十年を迎えられた教育職員三名と事務職員一名の方々に表彰状と記念品が贈られました。



永年勤続者の表彰

引き続き、神戸女学院大学文学部教授の内田樹氏より「ミッションスクール」のミッション」と題した記念講演がありました。

講演で内田氏は、ミッションとは大学が「何かを教えたい」という旗印を鮮明にすることだと述べられ、大学が市場のニーズに追随していく道を選ぶことは各大学が持つスクールカラーの希薄化につながると指摘されました。

本学においては、初代学長清沢満之の「開校の辞」や第三代学長佐々木月樵の「大谷大学樹立の精神」に

示されている「建学の精神」の大切さを再確認する機会となりました。



内田樹氏

「大学報恩講並びに歴代講師謝徳法要」を厳修

二〇一〇年十一月二十七日（土）、「大学報恩講並びに歴代講師謝徳法要」が厳修され、来賓をはじめ学内外から多数ご参集いただきました。宗祖親鸞聖人の絵像と歴代講師の肖像画が掲げられた講堂で、草野顕之学長の調声により「正信偈」を全員で唱和し、報恩講を勤めました。引き続き歴代講師の謝徳法要では、『阿弥陀経』の読経のなか、来賓、学生、学寮生、教職員の代表がそれぞれ焼香を行いました。また、六名の学生が出し、全学挙げての法要となりました。

法要終了後は、箕浦恵了名誉教授より「おお親愛なるバイドロス、どこへ、そしてどこから—近代におけ



箕浦恵了名誉教授

る学問理念形成の試み―」と題した記念講演がありました。箕浦先生は、「古代ギリシャの哲学は、自己を知る、自己の無知を知る」ことが課題だった」として、それを近代日本で問われたのが本学の初代学長清沢満之だったと紹介され、「清沢先生は生涯をかけて、ソクラテス以来の課題を宗教哲学の課題として取り組まれました」と述べられました。

その後、学内食堂で小豆粥のお齋を参詣者全員でいただきました。



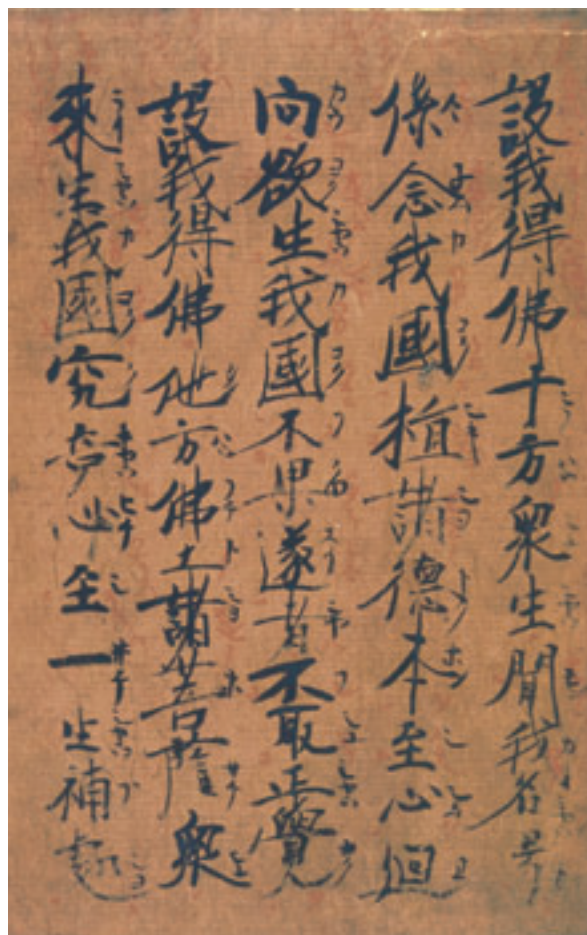
大学報恩講(講堂で)

親鸞聖人直筆の文書を発見

『仏説無量寿経』の第二十願と第二十二願の冒頭部分が書かれた半丁の断簡について、市民の方から調査依頼を受け、大谷大学で調査したところ親鸞聖人直筆の文書であることが判明しました。親鸞聖人直筆の文書であることが確認されたのは八年ぶりのことです。

この文書の調査(鑑定作業)は、草野顕之大谷大学長・教授(日本仏教史〈中世〉・真宗史)と小山正文(大谷大学真宗総合研究所嘱託研究員(日本仏教史・真宗史))が行いました。

親鸞聖人の文字には、にんべんの第二画が左に反れる、「國」の第二画



四十八願文拔書

の肩の部分が切れているなど特徴的な書き癖があることが、これまでの研究によって突き止められています。

これらの点を踏まえて、草野学長と小山嘱託研究員により鑑定作業が行われ、文字の特徴から親鸞聖人直筆の文書であることが確認されました。

この親鸞聖人真筆「四十八願文拔書」(写真)は、二〇一〇年十月十二日(火)から十一月二十八日(日)まで開催された、宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌記念の大谷大学博物館二〇一〇年度特別展「親鸞―その人と生涯―」にも特別出陳されました。

二〇一〇年度特別展「親鸞―その人と生涯―」には、親鸞聖人坐像(法藏寺蔵・親鸞聖人像〈安城御影〉模写本(真宗大谷派蔵)・本願寺聖人伝絵(康永本)



特別展「親鸞―その人と生涯―」

本学が第四十六回献血運動推進全国大会で厚生労働大臣表彰を受賞

二〇一〇年十月、本学が第四十六回献血運動推進全国大会において、献血運動の推進に長年に亘って積極的に協力したとして、厚生労働大臣表彰を受賞しました。

今回の受賞は、本学の学生と教職員との自発的な協力により、二十年以上に亘る献血運動への功績が評価されたためです。

本学では年三回の献血を実施しており、ポスターの掲示や学内放送での呼びかけ

を行うなどして、年間約一五〇名が献血に協力しています。



厚生労働大臣よりの表彰状

(真宗大谷派蔵)など、重要文化財四点・京都市指定文化財二点を含む三十点余りが展示されました。

母校の動き (2010年9月～2011年3月)

2010年

9/ 7(火)～25(土)

【博物館秋季企画展】

「写して伝える－文字と形－」

9/25(土)【教育後援会全国父母兄弟懇談会】

9/28(火)【宗祖親鸞聖人御命日勤行・講話】

「モンゴルの仏教寺院－調査の経験から－」

松川 節 大谷大学教授

9/30(木)【前期卒業証書・学位記授与式】

【前期卒業・修了ならびに同窓会新入会員歓迎祝賀会】

10/ 2(土)【平成22年度大谷大学国文学会講演会】

「板木は語る」

永井 一彰 奈良大学教授

10/12(火)～11/28(日)

【博物館特別展】宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌記念特別展

「親鸞－その人と生涯－」

10/13(水)【開学記念式典並びに初代学長清沢満之謝徳法要】

「ミッションスクールのミッション」

内田 樹 神戸女学院大学文学部教授

10/16(土)【宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌記念特別展

「親鸞－その人と生涯－」記念講演会】

「『本願寺聖人親鸞伝絵』の聖人像」

沙加戸 弘 大谷大学教授

10/16(土)・17(日)

【大学院秋季入学試験】

【大学院社会人入学試験】(16日のみ)

【文学部第3学年社会人編入学試験】(17日のみ)

【文学部第3学年推薦編入試験[前期日程]】(17日のみ)

10/21(木)【大谷学会研究発表会】

蘭茂本『顔略易通』考

浦山あゆみ 大谷大学准教授

近世京都と東本願寺の造営

平野 寿則 大谷大学准教授

中山岡地における生活問題と地域福祉

－奈良県川上村を中心に

志藤 修史 大谷大学准教授

大谷大学の人権教育に関する私論

谷 眞理 大谷大学教授

10/28(木)【宗祖親鸞聖人御命日勤行・講話】

「自然詩人ワーズワース－「虹の詩」をめぐって」

宮川 清司 大谷大学教授

11/ 3(水)【宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌記念特別展

「親鸞－その人と生涯－」記念講演会】

「親鸞聖人と鎌倉」

津田 徹英 東京文化財研究所

文化財アーカイブス研究室長

11/ 6(土)・7(日)

【公募制推薦入学試験】

11/12(金)～14(日)

【2010年度 紫明祭】

11/13(土)【第15回同窓会ホームカミングデー】

11/17(水)【大谷大学真宗学会大会】

「隆寛の思想形成－青蓮院門徒から法然門第へ－」

善 裕昭 浄土宗総合研究所研究員

「親鸞における『教行信証』の課題」

三木 彰円 大谷大学准教授

11/20(土)・21(日)

【指定校制推薦入学試験】

11/27(土)【大学報恩講並びに歴代講師謝徳法要】

「おお親愛なバイドロス、どこへ、そしてどこから

－近代における学問理念形成の試み－」

箕浦 恵了 大谷大学名誉教授

12/ 1(水)【2010年度課外教育行事－異文化との出会い－

映画「ムアラフ 改心」上映会

12/ 1(水)【大谷大学仏教学会公開講演会】

「中観思想とは何か－ナーガールジュナと初期仏教－」

斎藤 明 東京大学人文社会系研究科教授

日本印度学仏教学会理事長

12/ 4(土)【教育後援会東海地区父母兄弟懇談会】<静岡会場>

12/ 5(日)【教育後援会東海地区父母兄弟懇談会】<名古屋会場>

12/ 8(水)【2010年度第2回“人権問題を共に考えよう”

全学学習会】

「子どもの貧困と人権－現状分析とこの国の未来－」

小野 良一 千葉明德短期大学講師

「なくそう！子どもの貧困」

全国ネットワーク共同代表

12/11(土)【文学部第3学年推薦編入試験[後期日程]】

【大学院外国人留学生入試】

12/12(日)【自己推薦入試】

12/14(火)～2/19(土)

【博物館冬季企画展】京都を学ぶ

「京の寺内町」

12/16(木)【大谷大学中国文学会公開講演会】

「白居易と「故郷」」 澤崎 久和 福井大学教授

2011年

1/15(土)・16(日)【大学入試センター試験】

2/ 7(月)～9(水)【一般入試[第1期]】

2/26(土)【文学部第3学年一般編入学試験】

2/27(日)・28(月)【大学院春季入学試験】

3/ 9(水)【一般入試[第2期]】

3/18(金)【卒業証書・学位記授与式】

【卒業・修了ならびに同窓会新入会員歓迎祝賀会】

人 事

退職

【事務職員】

菊池 隆興 (総務部)

二〇一〇年九月十八日付

*依願退職

【教育職員】

芦津 孝一 (准教授・文学部)

二〇一〇年九月三十日付

【事務職員】

荻北 紳一郎 (総務部)

二〇一〇年九月三十日付

【事務系嘱託】

田中 恵理 (企画・入試部)

二〇一〇年九月三十日付

新規採用

【事務系嘱託】

前田 幸子 (企画・入試部)

二〇一〇年十月一日付

敬 弔

本学並びに同窓会発展のためご尽力賜わりました元校友センター主任の菊池隆興氏が、二〇一〇年九月十八日にご逝去されました。菊池氏は、特に本学近代化百周年記念事業の折、全国の同窓会支部への募金活動にご尽力されました。

ここに深甚の謝意を表し、謹んでお悔やみ申しあげます。

落語研究会の清水洋一郎さんが『第二回
全日本大学生落語選手権』で優勝

二〇一〇年八月二十八日(土)、東京都・豊島区民センターホールで開催された『第二回全日本大学生落語選手権』大学生落語家日本一決定戦』において、本学の落語研究会清水洋一郎さん(文学部史学科第四学年、芸名・賀茂乃歩翻巻)がみごと優勝されました。清水さんは二〇〇九年九月二十三日(水)に開催された『第一回全日本大学生落語選手権』大学生落語家日本一決定戦』にも西日本代表として出場され、第三位敢闘賞を受賞しています。

清水さんは、鳳徳地域など近隣地域で開催される寄席に積極的に参加して腕を磨いてきました。そして、二〇一〇年八月一日(日)、大阪市立中央会館で開催された、西日本大学生落語選手権『第二回全日本大学生落語選手権』の西日本代表となりました。



大学生日本一に輝いた表彰式

「大会に勝つため、今年はタイトルホルダーになると周囲に宣言しながら自分にプレッシャーをかけてきま



喜びの清水洋一郎さん

した。これも場数を踏んできたことと、優勝できなかった経験のおかげだと思っています。また嬉しかったことは、大谷大学落語研究会の顧問の采翠晃准教授・ゼミの桂華淳祥教授など多くの方々が十月に祝賀会を開いてくださったことです。応援してくださった方々、本当にありがとうございました」と、清水さんは話していました。

清水さんと落語研究会の今後の活躍が期待されます。

二〇一〇年度秋季課外活動の結果

【団体成績】

●卓球部(男子)

- ・関西学生卓球秋季リーグ戦
Ⅳ部Aブロック三位 五勝二敗

●卓球部(女子)

- ・関西学生卓球秋季リーグ戦
Ⅳ部四ブロック八位
- 勝一敗棄権六

●空手道部

- ・第五十三回全関西空手道選手権大会
Ⅱ部Bブロック一回戦敗退
- ・第二回関西学生空手道オープントーナメント
一勝五敗

●硬式野球部

- ・京滋大学野球連盟秋季リーグ戦
Ⅰ部五位 四勝七敗一分

●サッカー部

- ・第八十八回関西学生サッカーリーグ 後期
Ⅲ部一位 一〇勝〇敗(Ⅱ部昇格)

●剣道部

- ・全日本仏教系大学剣道大会
○勝一〇敗
- ・関西優勝大会
二勝三敗
- ・京都府優勝大会
○勝二敗

- ・関西学生剣道新人大会
二勝四敗
- ・京滋学生剣道新人大会
一勝六敗

●バスケットボール部

- ・関西学生男子バスケットボールリーグ戦
Ⅴ部Bブロック五位 三勝五敗
- ・関西学生女子バスケットボールリーグ戦
Ⅲ部Aブロック一四位 三勝六敗

- ・関西女子学生バスケットボール秋季トーナメント大会
一回戦敗退
- ・第四十五回秋季京都学生バスケット

トボール選手権大会
一回戦敗退

●男子バレーボール部

- ・関西大学バレーボール秋季リーグ戦
Ⅷ部二位 六勝一敗(Ⅵ部昇格)

●バドミントン部

- ・関西学生バドミントン秋季リーグ戦(男子)
Ⅵ部Cブロック二位
七勝一敗(Ⅴ部昇格)
- ・関西学生バドミントン秋季リーグ戦(女子)
Ⅵ部Bブロック一位
七勝一敗(Ⅴ部昇格)

- ・関西学生バドミントン新人戦大会(男子)
一勝八敗
- ・関西学生バドミントン新人戦大会(女子)
四勝八敗
- ・京都学生バドミントン選手権大会(男子)
六勝四敗
- ・京都学生バドミントンクラス別大会(男子)
三勝七敗
- ・京都学生バドミントンクラス別大会(女子)
九勝五敗

●アメリカンフットボール部

- ・関西学生アメリカンフットボール秋季リーグ戦
Ⅲ部Cブロック五位 ○勝四敗

【個人成績】

●サッカー部

〈第八十八回関西学生サッカーリーグ 後期〉

・得点王 佐武 瑛久

（文学部国際文化学科 第三学年）

・ベストイレブン 藤原 純輝

（文学部社会学科 第四学年）

・ベストイレブン 竹下 賢司

（文学部社会学科 第四学年）

・ベストイレブン 松原 祐樹

（文学部国際文化学科 第四学年）

・ベストイレブン 中西 一馬

（文学部人文情報学科 第三学年）

・ベストマネージャー 奥村 俊

（文学部真宗学科 第四学年）

●陸上競技部

〈第四十七回関西学生陸上競技学年別選手権大会〉

・男子三〇〇〇mSC 六位入賞

新田 義樹

（文学部真宗学科 第二学年）

●バドミントン部

〈京都学生バドミントン選手権大会（男子）〉

・シングルスBクラス優勝

岡本 大輔

（文学部文学科 第四学年）

〈京都学生バドミントンクラス別大会（女子）〉

・シングルスBクラス優勝

村松 実歩

（文学部教育・心理学科 第一学年）

●跆拳道部

〈第五回青龍会オープンテコンドー選手権大会〉

・男子一般初級 五十八キロ級

準優勝

南木 心

（文学部真宗学科 第二学年）

・男子一般初級 五十八キロ級

三位

中村 広紀

（文学部仏教学科 第二学年）

〈二〇一〇リンクステコンドーフェスティバル〉

・男子一般中級 五十八キロ級

南木 心

（文学部真宗学科 第二学年）

大谷大学教員の出版物紹介

◎『近・現代真宗教学史研究序説』

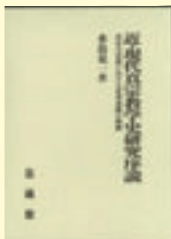
—真宗大谷派における改革—

運動の軌跡—

水島見一 著

法蔵館 刊

（二〇一〇・三）八五八頁



◎『信は生活にあり—高光大船の生涯—』

水島見一 著

法蔵館 刊

（二〇一〇・九）一九四頁



◎『シリーズ親鸞第七巻『親鸞の説法—『歎異抄』の世界—』

延塚知道 著

筑摩書房 刊

（二〇一〇・四）二四九頁

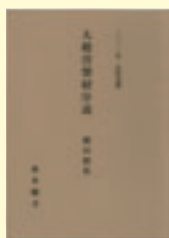


◎『大般涅槃經序説』

織田顕祐 著

東本願寺出版部 刊

（二〇一〇・七）二二八頁



◎『岩倉流 伝承三百年のあゆみ』

中森一郎他 共著

伊勢新聞社 刊

（二〇一〇・九）一九八頁



◎『教育の根源—人間形成の原理を問う—』

川村覚昭 著

晃洋書房 刊

（二〇一〇・一〇）二五六頁

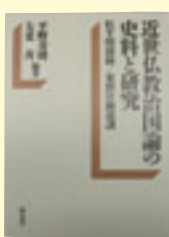


◎『近世仏教治国論の史料と研究—松平開運録／東照宮遺訓—』

平野寿則／大桑斉 編著

清文堂出版 刊

（二〇一〇・一二）七五二頁



二〇一一年度 博物館開館予定

◆春季企画展「大谷大学のあゆみ―
歴代学長の肖像 明治・大正・昭和―」
四月一日(金)～五月十四日(土)

◆夏季企画展「仏教の歴史とアジア
の文化ⅩⅤ(仮)」
六月三日(金)～八月七日(日)

◆秋季企画展「仏教の歴史とアジア
の文化ⅩⅥ(仮)」
九月六日(火)～九月二十四日(土)

※実習生展併催

◆冬季企画展「京都を学ぶ(仮)」
十二月十三日(火)～二〇一二年
二月十八日(土)

◆特別展「親鸞―真宗本廟の歴史―」
十月十一日(火)～十一月二十八
日(月)

詳細は大学ホームページをご覧い
ただくか、博物館(TEL〇七五―
四一一八四八三)にお問い合わせ
ください。

人文情報学科の全学生に iPadを配布

大谷大学では二〇一一年四月、ア
ップル社の情報端末「iPad」を
人文情報学科の全学生(約四七〇名)
に無償配布します。本学のように「i



報道機関への記者会見(池田佳和教授(左))

Pad」を一斉に配布するのは、全
国でも初めてのケースのようです。

人文情報学科では、将来、学生た
ちがコンテンツビルダーとして、ク
リエイターとして、また、ITの高
度運用ができるエンドユーザーとし
て社会で活躍することを目的に、二
〇一一年度から教育プログラムの刷
新を行ってまいります。

また、報道機関への記者会見にお
いて、「iPad」を講義や実習で
利用する予定であり、楽しみながら
勉学できる環境を整備することを念
頭に、「教材テキストの電子書籍化」
「これまで各ゼミで取り組んできた
成果物のモバイル化」を推進すると
ともに、「ツイッターなどの双方向
コミュニケーション機能を生かした
授業時における質疑応答やデイベー
ト」「出席自動記録」などの学習サ
ポート機能の開発などが想定されて
いる、との報告がありました。

大谷大学博物館「iPad展示 ガイド」コンテンツの運用開始

大谷大学博物館では、二〇一〇年
度特別展において「iPadを活用
した展示ガイドの運用」を開始しま
した。

このコンテンツは、デジタル
ミュージアムの要素を取り入れ、観
覧時にiPadを利用することによ
り、これまでとは異なる博物館体験
を提供することを目標に開発されま
した。今回開発されたコンテンツに
は、iPadを活用した二カ国語(日
本語・英語)による音声ガイドや、
展示品の全容をスクロールして確認
できる観覧支援の機能が搭載されて
います。

このコンテンツは人文情報学科の
松川節教授と平澤泰文講師、および
松川ゼミの学生により開発され、人
文情報学科では二〇一一年四月から
の教育・研究活動における「iPad



iPadの使用風景(大谷大学博物館で)

dを導入し
た新たな教
育プログラ
ム構築」の
スタートに
向けて鋭意
準備を進め
ています。

ミュージアムグッズを販売中

大谷大学博物館が所蔵してい
る貴重な資料をデザインした、
各種グッズを販売しています。
各種行事等にご利用ください。
地方発送等も承ります(送料
別)。お問い合わせ・お申し込
みは同博物館(TEL・〇七五―
四一一八四八三)まで。

◆「トートバッグ」



四〇センチ×三〇
センチ×八センチ
(中国古印をデザイン
一、五〇〇円(税込)

◆「クリアファイル」



五枚一組特製封筒付
き(中国雲崗石窟・
天龍山石窟の拓本か
らデザイン)
五〇〇円(税込)

◆「ミニ便箋」



赤・青 各色(貝葉
資料を包装のシルク
よりデザイン)
三五〇円(税込)

◆「オリジナル手ぬぐい」



(中国古印をモチーフ
にデザイン)
八五〇円(税込)

教育振興資金(募金)への御礼

大谷大学・大谷大学短期大学部では、教育研究環境の一層の充実を図るため「教育振興資金局」を設置し、募金活動を行っています。このたびはご協力いただき、誠にありがとうございます。ご寄付いただきました資金は、教育・研究の充実を図るための環境整備に充ててまいります。

また、大谷大学は文部科学省から「特定公益増進法人」の認可を受けていますので、寄付金に対しては税法上の減免税措置が受けられます。

今後も引き続き、募金のお申込受け付けを行っておりますので、ご支援賜われますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

2010年7月1日から2011年1月31日までの間に、ご寄付をいただきました方々のご芳名は次のとおりです。厚く御礼申し上げます。

◆件 数 68件

◆寄付金総額 4,970,000円

[教育振興資金寄付者 (敬称略)]

青木 哲心 (北海道)	浅田 純 (長崎県)	芦田 潔 (京都府)
天山 敬信 (愛知県)	池浦 リエ (奈良県)	井上 雅之 (山形県)
今川 雅照 (福井県)	梅原 達三 (京都府)	江崎 国昭 (福岡県)
遠藤 一成 (京都府)	岡本 紘 (大阪府)	奥林 暁 (大阪府)
小野内悦二郎 (京都府)	笠岡 良澄 (京都府)	亀田 治利 (大阪府)
木下 敦子 (和歌山県)	紺屋 良一 (滋賀県)	佐々木 元 (岐阜県)
佐治 有孝 (愛知県)	杉本 稔 (福岡県)	高村 延芳 (京都府)
瀧山すはの (富山県)	竹浪 達朗 (青森県)	辰井 景時 (大阪府)
巽 正俊 (大阪府)	田原 英二 (山口県)	寺岡 聡 (京都府)
寺田 彰 (石川県)	暉 了 (新潟県)	豊田 健治 (岐阜県)
仲 恭伸 (和歌山県)	難波 明則 (大阪府)	野坂 栄次 (福井県)
蓮井 道雄 (福岡県)	長谷岡英信 (京都府)	日野 康宣 (愛知県)
平野 雅彦 (静岡県)	藤井 守 (岡山県)	藤坂 初裕 (富山県)
北條 秀樹 (富山県)	堀内 楢夫 (大阪府)	本間 正順 (新潟県)
松井 秀宣 (島根県)	松木 正寿 (新潟県)	松代 暢 (石川県)
松永 茂樹 (京都府)	松村 徹 (兵庫県)	三井 英俊 (愛知県)
美濃 裕士 (大阪府)	美濃部俊裕 (滋賀県)	宮東 匠美 (京都府)
村山 秀映 (新潟県)	山田 武司 (大阪府)	山外 恭久 (滋賀県)
吉川 久雄 (京都府)	和田 一馬 (滋賀県)	匿名 (1名)

大和電設工業(株)・棚谷 晴雄 (京都府)

(有)江戸前おでん深谷・深谷 淳一 (北海道)

本覚寺 [渥美 芳映] (石川県)	西念寺 [梅溪 得文] (岐阜県)
正敬寺 [草野 文明] (長野県)	浄雲寺 [相馬 温] (大分県)
聖徳寺 [嶽小原 晃] (鹿児島県)	大牟田教会 [深谷 尊仁] (福岡県)
円徳寺 [藤谷 伸宏] (山形県)	称念寺 [松村 一哉] (神奈川県)
真宗寺 [森口 達] (北海道)	

※ご寄付につきましては随時受け付けています。

【お申し込み／お問い合わせ先】

教育振興資金事務局

京都市北区小山上総町

大谷大学総務部校友センター内

TEL 075-411-8124

FAX 075-411-8157

E-mail: kouyu@sec.otani.ac.jp

2011年度前期 大谷大学生涯学習講座のご案内

大谷大学では様々な教養を身につけたい方に、本学の知的資産をベースとした生涯学習講座を開講しています。本学ならではの宗教・信仰を求めていく講座、現代社会をいかに生きるのかをテーマとする講座、京都の文化の奥深さを知る講座など、切り口は多様ですが、共通するテーマは「人間」です。大谷大学の生涯学習講座にご期待ください。

(講師の肩書は2011年3月現在のものです)

開放セミナーのご案内

1	テーマ	シリーズ浄土三部経を読むー『大無量寿経』ー
	講師	一案 真(大谷大学教授)
	開講日	6月1日・8日・22日・29日・7月6日・13日(水)
	時 間	18:00～19:30
	定 員	100名
	会 場	メディアホール
	受講料	6,000円(税込)
	申込締切	5月25日(水)当日消印有効

2	テーマ	なにがちがう小学校?ーあごろの勉強、今の勉強ー
	講師	岩淵信明(大谷大学教授)ほか
	開講日	5月14日・21日・28日・6月11日・25日・7月2日・16日・23日・30日(土)
	時 間	14:00～15:30
	定 員	100名
	会 場	メディアホール
	受講料	9,000円(税込)
	申込締切	5月6日(金)当日消印有効

3	テーマ	自分をはみ出せ! 俵越山の自分書道ー囚われている自己からの解放ー
	講師	俵 越山(書道家/大谷大学非常勤講師)
	開講日	5月16日・23日・30日・6月6日・13日・20日(月)
	時 間	①16:30～18:00 ②18:30～20:00 2クラス開講します。 お申込の際どちらかの時間帯をご指定ください。
	定 員	15名
	会 場	響流館ギャラリー
	受講料	10,000円(税込)
	申込締切	4月25日(月)当日消印有効 応募者多数の際には抽選を行います。

紫明講座のご案内

1	テーマ	安寿とつし王 一説経・中世の闇と光ー
	講師	沙加戸 弘(大谷大学教授)
	開講日	6月2日・9日・16日(木)
	時 間	18:00～19:30
	定 員	100名
	会 場	メディアホール
	受講料	3,000円(税込)
	申込締切	5月26日(木)当日消印有効

2	テーマ	学校を調べてみよう
	講師	山本貴子(大谷大学准教授)
	開講日	7月1日・8日・15日・22日・29日(金)
	時 間	14:00～15:30
	定 員	30名
	会 場	マルチメディア演習室ほか
	受講料	3,000円(税込)
	申込締切	6月17日(金)当日消印有効 応募者多数の際には抽選を行います。

3	テーマ	裁判員制度についてー市民の司法参加制度ー
	講師	吉川直人(神戸学院大学准教授/大谷大学非常勤講師)
	開講日	6月30日・7月7日・14日(木)
	時 間	18:00～19:30
	定 員	100名
	会 場	メディアホール
	受講料	3,000円(税込)
	申込締切	6月23日(木)当日消印有効

【申し込み方法】

講座案内を請求される場合には、ハガキ、メールフォームいずれかにて、①氏名・フリガナ、②郵便番号・住所、③電話番号を明記してください。また講座を申し込みの場合は、上記①～③に④講座名を記入の上、下記までお申し込みください。

【申し込み/問い合わせ先】

〒603-8143 京都市北区小山上総町 大谷大学教育研究支援課

TEL.075-411-8161(直通) FAX.075-411-8162 E-mail:o-semi@sec.otani.ac.jp

* 講座名等変更になる可能性があります。各講座の詳細については、教育研究支援課までお問い合わせください。

「同期会」「OB・OG会」について

◆「同期会」等を開催される時は、事前に同窓会本部へご連絡ください！

◇同窓会本部より、幹事様に「開催届」を送付いたします。

大谷大学同窓会本部（大谷大学総務部「校友センター」内）

＜連絡先＞TEL：075-411-8124（直通）

FAX：075-411-8157（直通）

E-mail：kouyu@sec.otani.ac.jp

※電話・FAX・メール等、ご都合の良い手段でご連絡ください。

◆まずは開催の1ヶ月前までに「同期会開催届」「OB・OG会開催届」をご提出ください。

◇「同期会」としてお届けいただくためには、その団体の全対象者にご案内をされていることが前提となります。

◇クラブの「OB・OG会」は、すべての年度の卒業生が対象となります。

◇「開催届」の提出と上記の内容を満たしている団体には通信費の一部として「開催助成費」を補助しています。

◆同窓会本部では、こんなお手伝いができます。

1. 申請により、連絡用名簿・宛名ラベルを提供することができます。

◇ご連絡いただいた後、同窓会本部から「申請書」を送付いたします。

◇「名簿・宛名ラベル」の作成は、「申請書」が同窓会本部に届いた日より1週間～10日程度かかります。

（事務の都合上、それ以上かかる場合もございます。）

2. 大学の施設を、同期会の会場として利用できます。

◇利用を希望される場合は、事前に同窓会本部へご相談ください。

3. ホームページ「無盡燈」に開催予定・報告を掲載します。

同窓会報『無盡燈』には、写真とともに開催報告を掲載します。

※「同期会」「OB・OG会」についての詳細は、お気軽に同窓会本部までお問い合わせください。

同窓会費の納入のお願い

本学同窓会は、同窓の皆さまと母校との連繫を図ることを目的に、同窓会総会等の諸会議の開催、支部総会・夏季八十講への補助、ホームカミングデーの開催、新入会員歓迎祝賀会の開催、会報誌『無盡燈』の発行・送付、ゼミ・クラスの同期会及びクラブのOB・OG会への補助等の事業を展開しています。

このような事業の財政基盤は、同窓の皆さまから納入していただく同窓会費（終身会費と年会費）と寄付金によって賄っています。

現在同窓会員は約三万五千名ですが、そのうち三分の二が終身会員（一九九二年三月以降の卒業・修了の方は、入会時に終身会費を納入していただいております）、三分の一が通常会員（一九九一年九月以前の卒業・修了生で終身会員以外の方）となっています。

同窓会活動は、母校の更なる発展のため、側面から大学を支え守り立てて行く意味において、ますますの活性化が強く求められています。このためにも、同窓会活動へどうか温かいご理解とご支援を賜わり、年会費または終身会費、寄付金の納入にご協力いただきますようお願い申し上げます。

いずれの場合も、同封の払込取扱票（郵便局扱）をご利用いただけますと手数料は不要です。

なお、通常会員から終身会員への変更も可能です。詳しくは、同窓会本部（〇七五―四一―八二四）までお問い合わせください。



2002年卒業 李青先生ゼミ同窓会 (2010.7.24)

7月24日(土) 徳寿にて、卒業後初の同期会を開催しました。お忙しい中、李青先生にもお越しいたき、楽しいひとときを過ごしました。「またみんなで集りたい!」と、次の同期会も計画中です。



昭和51年度入学 四学寮合同同期会 (2010.7.31)

昭和51(1976)年に入学した四学寮(洗心学寮、育英学寮、下鴨学寮、自灯学寮)の同期会を開催しました。草野学長の講演を聞いた後、懇親会で盛り上がりました。



大谷大学体育会剣道部 講武会総会 (2010.8.21)

今年の講武会は、多数のOB参加の稽古会になりました。懇親会には、白井元成先生にご臨席いただきました。



同期会、ゼミ・クラス会、OB・OG会

恩師を囲んで

同期会、ゼミ・クラス会、OB・OG会開催一覧

開催日	会 合 名
2010. 7.24 (土)	2002年卒業 李青先生ゼミ同窓会
2010. 7.31 (土)	昭和51年度入学 四学寮合同同期会
2010. 8.14 (土)	昭和60年3月卒業 渡邊ゼミ同期会
2010. 8.21 (土)	大谷大学体育会剣道部 講武会総会
2010. 8.21 (土)	2010年卒業 安井喜行ゼミ同期会
2010. 8.21 (土)	昭和41年度育英寮生同期会
2010. 8.23 (月)	昭和42年短期卒業 同窓会
～ 24 (火)	
2010. 8.26 (木)	2009年度宮崎ゼミ卒業生同窓会
2010. 8.29 (日)	十練会
～ 30 (月)	
2010. 9. 2 (木)	大谷大学40会 (昭和40年卒業文学部)
～ 3 (金)	
2010. 9. 7 (火)	岩見先生を囲む会 (昭和34年入学フランス語クラス)
～ 8 (水)	
2010. 9.13 (月)	第8回大谷大学育英学寮 (昭和30年4月入寮) 同期会
2010. 9.14 (火)	昭和35年大谷大学洗心寮同期会
2010. 9.25 (土)	直心行射会・OB総会・懇親会
2010. 9.25 (土)	2010年度大谷大学卓球部後援会総会・懇親会並びに卓球大会 (雲井杯争奪戦)
～ 26 (日)	
2010. 9.26 (日)	混声合唱団OB総会
2010. 9.28 (火)	大谷大学昭和21年度専門部卒業同期会
2010.10. 5 (火)	昭和36年卒業 文学部 同期会
～ 7 (木)	
2010.10.13 (水)	1965年卒業 短期国文科山本唯一ゼミ同期会
2010.11.13 (土)	谷雪会 総会 (スキー競技部OB・OG会)
2010.11.13 (土)	2010年度卒業 織田ゼミ同期会
2010.11.19 (金)	2009年卒業 山本和彦ゼミ 同期会
2010.11.20 (土)	笑いの学校落語研究会創立40周年記念OB・OG会
2010.11.28 (日)	大谷大学バレー部OB・OG会
2010.12. 3 (金)	水島ゼミ一期生同窓会



昭和60年3月卒業 渡邊ゼミ同期会 (2010.8.14)

今年も懐かしい顔が集まった。常に明るく、前向きな仲間の一員でいられることが誇らしい。皆の更なる飛躍を祈って、また来年!

2010年卒業 安井喜行ゼミ同期会 (2010.8.21)

卒業して半年という、少々早い同期会となりましたが、多くの仲間が集り、楽しい時を過ごせました。



昭和41年度育英寮生同期会（2010.8.21）
平成7年以来、8回目の懇親会を和倉温泉「のと楽」で開催した。
今回は16名の参加者を見、次回関東での再会を約束した。



昭和42年短期卒業 同窓会（2010.8.23～24）
昭和42年卒業仏教科・国文科合同同窓会をみやこホテルにて
行いました。次回は2年後、金沢の予定です。ご参加下さい。



十練会（2010.8.29～30）
十練会、杜の都（仙台）に13名参上。4年ぶりの再会により、夜は最高潮に盛り上がり。
また4年後の再会を楽しみに…。



2009年度宮崎ゼミ卒業生同窓会（2010.8.26）
今回の同窓会にはゼミの半数の人数しか集らなかったものの、
久しぶりに先生にも会えて、楽しい同窓会が行えた。



大谷大学40会（昭和40年卒業文学部）（2010.9.2～3）
我々は宗祖親鸞聖人七百回御遠忌法要の昭和36年に大谷大学へ
入学。「もう50年経ったかなあ。」



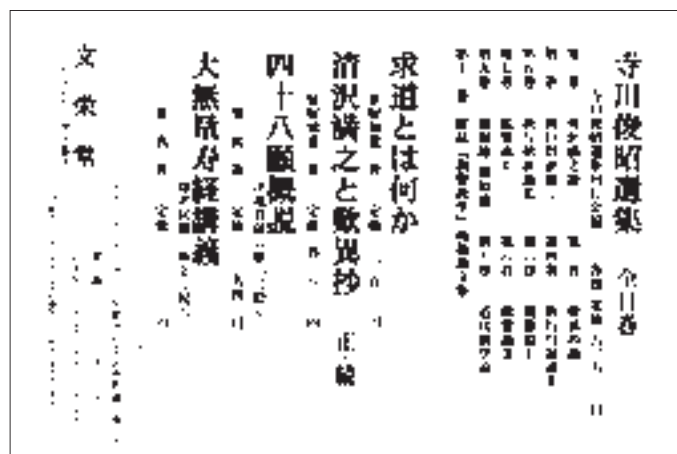
岩見先生を囲む会（昭和34年入学フランス語クラス）（2010.9.7～8）
特別何かがあるわけではないが、そこには気心の知れた、気兼ねの要らない
和やかな雰囲気は確かに在るというのが同窓会の良さでしょうか。



第8回大谷大学育英学寮（昭和30年4月入寮）同期会（2010.9.13）
母校で交歓し、昨年11月に還浄した友の追弔会を勤めた。懇親会は、上七軒で
京情緒を味わい、例年に況して盛り上がった。



昭和35年大谷大学洗心寮同期会（2010.9.14）
2010年9月14日、50年ぶりに旧洗心寮の同期会を開催した。「貴方はどなたでしたか」
「そういう貴方こそ…」



いのち みなもと
「生命の玄」

食事を大切にする。
食事を大切に考えて作る。
食事する人を大切に思っ作る。
それが典座の精神、私たちの仕事です。

〒612-8415 京都市伏見区竹田中島町39-2
TEL 075-643-5700 FAX 075-643-5698
URL : <http://www.tenzo.co.jp>

※いつもご利用賜りまして誠にありがとうございます。平成7年より
大谷大学学生食堂とBig Valley Cafeを運営させて頂いております。

HAPPY COOK



直心行射会・OB総会・懇親会（2010.9.25）
弓道部再開の礎を築いて下さった先輩が、数十年ぶりに御出席下さいました。道場に託された願いの重みを改めて感じました。



2010年度大谷大学卓球部後援会総会・懇親会並びに卓球大会（雲井杯争奪戦）（2010.9.25～26）

9月25日（土）に総会・懇親会、翌日に卓球大会を開催。久し振りに再会した方もおられ、卓球部創部80周年記念事業に向けて、大いに盛り上がりました。



大谷大学昭和21年度専門部卒業同期会（2010.9.28）

戦時中寮生活や大阪造兵廠に動因され爆撃や機銃掃射を体験するなど生死を共にした間柄だけに話題も尽きず、再会を約し散会しました。



混声合唱団OB総会（2010.9.26）

毎年、この時期に総会を開催し続けています。若いOBの参加があり、現役とも活発な交流を行っています。



1965年卒業 短期国文科山本唯一ゼミ同期会
(2010.10.13)

秋色濃くなった十月に短期国文学科の同期会を何年振りかに開催し、旧交を温めることができました。有意義な一日を過ごすことができました。

昭和36年卒業 文学部 同期会 (2010.10.5 ~ 7)

第六回同窓会は鹿児島でした。テーマ「薩摩の隠れ念佛」の歴史探訪で研修し、芋焼酎も酌み交わし旧交を温めました。次回は北海道。



2010年度卒業 織田ゼミ同期会 (2010.11.13)

久しぶりの再会で話も弾みとても楽しい会合となりました。また、ゆっくりした日にみんなで集りたいです。



谷雪会 総会 (スキー競技部OB・OG会) (2010.11.13)

第35回谷雪会総会が紅葉し始めた京都で行われました。今年は役員の交代が有り、若返りを図りました。これからも充実した活動をしていけるように一致団結して行くことを確認致しました。



2009年卒業 山本和彦ゼミ 同期会 (2010.11.19)

卒業生全員が集ることはできませんでしたが、山本先生と同期生と楽しい時間を過ごしました。また同期会をするのが楽しみです。



笑いの学校落語研究会創立40周年記念OB・OG会（2010.11.20）
お笑い馬鹿達の宴。ライブは1101教室、OB/OG会は「天寅」で開催。
みんな8時間喋りっ放し。元気です…。



大谷大学バレー部OB・OG会（2010.11.28）
11月28日（日）に、第34期OB・OG会を開催致しました。来年は、バレー部創設40周年を迎えますので、多くの方のご参加を期待しております。



水島ゼミ一期生同窓会（2010.12.3）
久しぶりに水島ゼミの皆と集る事ができました。先生の大らかな雰囲気に癒されつつ、楽しく食事ができました。

『無盡燈』への 広告掲載募集！

会報『無盡燈』への広告掲載を募集しています。
同窓生の皆さまが、現在お勤めの企業広告や名刺広告など、同窓の皆さまのご協力・ご支援をお願い申し上げます。
広告掲載料金・申し込み方法は次のとおりです。

- ・全一段（タテ六cm×ヨコ一八cm）
一〇〇、〇〇〇円
- ・1/2段（タテ六cm×ヨコ八・九cm）
五〇、〇〇〇円
- ・1/4段（タテ六cm×ヨコ四・四cm）
二五、〇〇〇円

お申し込み・お問い合わせは、
電話、FAXまたはEメールで
「大谷大学同窓会本部」までお申し出ください。

TEL 〇七五-四一-八二二四
FAX 〇七五-四一-八一五七
E-mail: kouyu@sec.otani.ac.jp

通信

「海外勤務―感謝と喜び―」 菊池 法純

(一九六一年大学院修士課程修了)

三十四年奉職した外務省を定年退職して十一年になる。海外勤務が長かった。インドは留学時代を入れると八年、ネパールは三回在勤があり十四年、最後にローマにあるヴァチカン大使館に三年数カ月在勤した。三十六年間、人生の三分の一を外国で暮らしたことになる。

大学では故山口益先生の下でインド大乘仏教を専攻した。英語・チベット語・ヒンディー語など会話の習得に励んでいた。うちに研究志向から横道にそれた。それでも、サンチー仏教遺跡保存計画・ルンビニ開発計画・カトマンズ盆地文化遺産保存計画に係わり、大学で学んだ仏教・ヒンズー教に関する知識が大いに役立った。ヴァチカンでは、故西谷啓治先生から学んだ宗教学に関する知識が職務遂行



に大きな支えとなった。

大学の校門近くに「知進守退」と刻まれた大きな石碑があった。在学中はその意味を知ることにはなかったが、母校を想い起す度毎にこの言葉が脳裡に飛来した。この言葉は、親鸞聖人が『教行信証』「証卷」にも引用されている『浄土論』の「離苦提障」の文を註釈された『浄土論註』の言葉であることを知ったのは最近のことである。「知進守退」の智と「空無我を知る」慧とにより菩薩は自棄を求めず、我心への食着を遠離して智慧門を展開する。

入学と同時に洗心学寮という学寮に入寮した。朝夕食事前に「正信偈」や「嘆佛偈」などの勤行があった。京都の冬は殊の外寒い。火の気のないところでの勤行は厳しい修行であった。この頃堀川にあるキリスト教の教会で英会話を学び始めた。大学では、寿岳文章先生等著名な英文学者の講義や講読があり、英語の勉強に力を入れた。この時身につけた英語力はその後の海外勤務に大いに役立った。平成二十二年、秋の叙勲で瑞宝双光章を受章した。有縁・無縁多くの方々の指導と支援に支えられて今日生かされていることを思い、感謝と喜びをかみしめている。

(元国家公務員)

敬弔

ご生前のご功勞を偲び、
謹んで哀悼の意を表します。
()内は最終卒業・修了年(敬称略)
※同窓会本部掌捌分

宮山	哲城	短期(一九六九)	二〇〇九・四・二〇
安野	亮雄	文学部(一九五四)	二〇〇九・一〇・二七
岡	智宏	短期(一九五九)	二〇一〇・一・一九
山元	祐信	短期(一九六四)	二〇一〇・二・四
白鳥	栄治	文学部(一九七)	二〇一〇・三・一

ご結婚

おめでとーいっす

幸せなご家庭を築かれることを
念じ申あげます。
()内は最終卒業・修了年(敬称略)

※同窓会本部掌捌分



北條	智秀(二〇八)	●	和泉	志保
片倉	健吾(二〇三)	●	夏原	麻里子
明泉	周芳	●	譲	みのり(二〇四)
山本	琢(二〇七)	●	松金	直美(二〇七)
首藤	圭亮	●	三割	絵理会
川村	真也	●	池田	佳奈枝(二〇〇)
名和	達宣(二〇七)	●	深草	証子(二〇九)
後藤	智道(二〇〇)	●	高取	由起子

※大谷太学講堂で仏前結婚式をお受けしています。お周
いはわせば、総務課(TEL〇七五―四一―八八六三)まで。

窓 同

「原本をあたれ」

柴田 真由美

(一九八五年文学部・文学科卒業)

昨秋、母校ホームカミングデーの懇親会会場にてフルートを演奏する機会を頂きました(本誌5頁参照)。そのことは、同時に学生時代からの、来し方を考える貴重な機会になりました。

在学中のことを思い起こすと、自由に過ごしたあの四年間は、自分にとって大きな財産であり、一つの基盤を成している、特に石橋義秀先生のゼミで学んだことは、いつも自身の根底にあるように思います。先生は、「孫引きはいけない、原本をあたれ」と常に仰っておられました。大谷大学で学んだことの第一の宝は「原本をあたれ」この一言に尽きると思います。

日頃は日本でもすっかりポピュラーになったフルートという楽器を使ってクラ



シックと呼ばれる分野、主に西洋の音楽に取り組み、国文学分野に籍を置いていた大学時代とは一見全然違うように見える道に進んでしまった自分、京都という土地に住まいながら自国の伝統文化も十分に身に付けていないのに先祖代々の血の中になんか感覚を求めている自分とは一体どういう人間かと時々思います。しかしながら、先人が残した作品に向かい合う時に、その時代の様式、背景、思想文化を理解するための作業は、国文学と西洋音楽という表向きは全く違う分野においても、実は繋がっていることに気付かされます。目指すところは楽譜に込められた自然を音にしていって、結局は原本をあたれ、行間を読み、掘り下げていく作業なわけですから、その点でも洋の東西、分野は関係ないかもしれません。二十年ほど前、フランスで通りすがりのおじいさんに「どこから来た？」と尋ねられ、「日本から」と答えたら、「なんでそんな遠くから来た？ 何しに来た？」「西洋音楽を学ぶために」「なんで？」これから先も「なんでやる？」と思いつつ、常に背後からは「原本をあたれ」とのお言葉を感じつつ、フルートを吹き続けていくことと思います。

(シリンクスフルートアンサンブル
フルート奏者)

前田 曉賢	高志 文浄	元平 恒昭	栗原 宣也	堀田 環秀	山田 正英	奥村 裕明	菊池 隆興	濱田千賀江	黒田 順慧	三林 晋	徳永三男	寺永 哲	朝倉 利行	藤宮 法覚	岡本 祐鳳	秀 信雄	加藤 文雄	藤谷 良華	清原 彰円	齊藤 努	石川 完之	佐々木顕映	中田 昌夫	武内 一美	野々山洪美	恵美 曉了	伊藤 康雄	不二井哲城	安藤 良正	東 臻	田中 信司	香川 坦	安藤 勝寿	桑原 教恵	小島 敏夫	安城 正親
文学部(一九五九)	文学部(一九五九)	文学部(一九五九)	短期(一九七八)	大学部(一九五三)	大学部(一九五三)	文学部(一九七四)	文学部(一九七四)	文学部(一九八三)	大学部(一九八三)	大学部(一九四九)	大学部(一九四二)	短期(一九七八)	大学部(一九四五)	大学部(一九四二)	文学部(一九六二)	大学部(一九四四)	大学部(一九四四)	文学部(一九五二)	文学部(一九六二)	文学部(一九四九)	大専門(一九四四)	大専門(一九四四)	大学部(一九四二)	大学部(一九四四)	文学部(一九五七)	大専門(一九四四)	大専門(一九四四)	文学部(一九六〇)	文学部(一九五六)	大専門(一九四八)	文学部(一九八三)	短期(一九五七)	文学部(一九六〇)	大学部(一九四六)	大専門(一九四三)	文学部(一九五四)
二〇〇・三・二七	二〇〇・三・二七	二〇〇・二・一九	二〇〇・二・一九	二〇〇・二・四	二〇〇・九・一五	二〇〇・九・一五	二〇〇・九・一八	二〇〇・九・一六	二〇〇・八・一七	二〇〇・八・一七	二〇〇・八・一四	二〇〇・八・一三	二〇〇・八・一七	二〇〇・八・一三	二〇〇・八・一二	二〇〇・七・一八	二〇〇・七・九	二〇〇・七・九	二〇〇・六・九	二〇〇・六・九	二〇〇・五・一八	二〇〇・五・一三	二〇〇・五・一三	二〇〇・五・一六	二〇〇・五・一六	二〇〇・五・一六	二〇〇・五・一四	二〇〇・五・一〇	二〇〇・五・一〇	二〇〇・五・一五	二〇〇・四・一〇	二〇〇・四・一六	二〇〇・四・一〇	二〇〇・四・一〇	二〇〇・四・一〇	

「開放セミナー異聞」

大谷大学の開放セミナーは、平成二年の後期、大谷大学の開放の一環として、当時の学長であった寺川俊昭先生の「親鸞の世界―『教行信証』―」、大谷大学教授岩田慶治先生の「文化人類学から見た自然、風景、宗教」の二講座をもって開始された。

以後、平成七年からはリカレント講座、平成十年からは紫明講座を加えて本年度二十一年目を迎えている。

筆者は平成十一年十二月紫明講座に出講し、井原西鶴の『世間胸算用』をとりあげた。この時の「先端的文学―おもしろおまつせ、西鶴は!―」という標題は、当時、辛口批評で知られた先生の賞讃を賜った。正統の大阪弁で発音すると、「おもしろおまつせ」は「おもしろせ」と聞こえる。また、西鶴も大阪の抑揚でないといけない。それを考えての命名であったが、同僚の先生も、また受講生の方々も、それを共有して下されたことが、まことに嬉しかったと記憶している。

以来、近世文学、特に浄瑠璃・俳諧・浮世草子を読んできたが、平成二十二年度は、親鸞聖人七百五十回の御遠忌記念として、

三回に亘って『本願寺聖人 親鸞 伝絵』をとりあげた。

この平成二十二年後期「親鸞聖人の御生涯を辿る―名文『御伝鈔』―」の講座で、筆者の講座がちょうど二十回目となった。これを記念して事務局が、受講の方々との懇談会を企画して下された。この講座の受講生は七十四名であったが、そのうちの十四名の方々の御参加を得て、まことに楽しい一刻であった。

中には、「二十回全部聞きました」という、筆者にしてみれば身の縮むような方もおられて、話題は歌舞伎・浄瑠璃から、俳諧・唱歌・歌謡曲・童謡に及び、一時間半の予定は三十分以上延びた。

大学における授業と、開放セミナーにおける講座との一番大きな違いは、説明に長い時間のかかる場所が違う、ということである。受講生の持つておられる人生の長い時間の重みと、現代の学生の持つている感性の柔らかさとを、あらためて痛感すると共に、それを橋渡ししてゆく身の未熟さを、至福とも言えるべき楽しさの中に、今さらのように思い知った、得難い懇談会であった。

大谷大学教授

沙加戸 弘

表紙絵

「二上山早春」

41.0 × 53.0 cm 二〇一一年作

私の故郷は修験道の開基とされる役小角の生まれたところで、朝な夕なに修験道の山、葛城山を仰ぎ見て育ちました。その金剛、葛城山系の北端に二上山があります。二つのこぶを持つ山で万葉の時代から歌にうたわれています。そのこぶの高い方、雄岳の頂上に天武天皇の皇子で謀反の疑いをかけられ自害したとされる大津皇子の墓があり、山を越えた西側河内には聖徳太子の墓のある「磯長の御廟」(靱福寺山内)があります。山の東側の南麓には当麻曼荼羅(浄土変相図)や双塔が現存していることで名高い当麻寺があります。

そして二上山が真正面に見えるところに、親鸞聖人が「正信偈」や「和讃」にあらわされた七高僧の一人「源信」(恵心僧都九四二―一〇一七)の生まれられた五位堂があります。子供の時に、父の死によって女手ひとつで五人の子を育てることが出来ない母は四人の娘を連れて、以前から信仰深かったこともあって仏門に入り、剃髪して尼僧となります。一人、源信は比叡山に登り出家して修行に励まれました。そこで浄土の心に至る浄土教を学び、三十八才の時比叡山の北端の横川に隠遁して念仏の教えを学び体得して帰依するようになりました。そして、念仏により極楽浄土往生を願う『往生要集』を完成されました。

平安時代後期以降、浄土教美術が発展し、多くの浄土教絵画が描かれましたが、その中に「山越の阿弥陀」があります。「禅林寺」や「金戒光明寺」の鎌倉時代の作は特に有名で、それらのイメージの元となる地はいくつかの説が言われていますが、私は二上山の雄岳と雌岳の間に沈む夕日に山越の阿弥陀を感じます。源信は弥陀の来迎を観想したのではないかと、と考える自然な風景です。今は周囲に新しい住宅がたくさん建ち、随分と景観は変わってしまいましたが、いくつかある古墳の陪塚には人の手は入っておらず雑木も自然で、そこから見える二上山は源信の時代と変わっていないように思えます。

畠中光享 (一九七〇年文学部卒業)

大谷大学非常勤講師 日本画家

2011年3月17日発行

発行 大谷大学同窓会本部
編集 『無盡燈』編集委員会

〒603-8143 京都市北区小山上総町 大谷大学校友センター内
電話 (075) 411-8124 FAX (075) 411-8157
振替 01020-9-20542

同窓会ホームページ <http://www.mujinto-otani.org/>

E-mail: kouyu@sec.otani.ac.jp

『無盡燈』の題字について 親鸞聖人の真蹟の坂東本『教行信証』から集字したものです。『維摩経』に「無盡燈というのは、譬えば一つの燈をもって百千の燈をともしよう的なものである。冥やみがみな明るくなるが、その明りはついになくなることがない。…説かれた教えのとおりにみずから一切の善いことがらを増しふやす。これを無盡燈となづける」とあり、先輩がともし続けた伝統に輝く燈の名に恥じないことが願われています。